

2007年3月26日

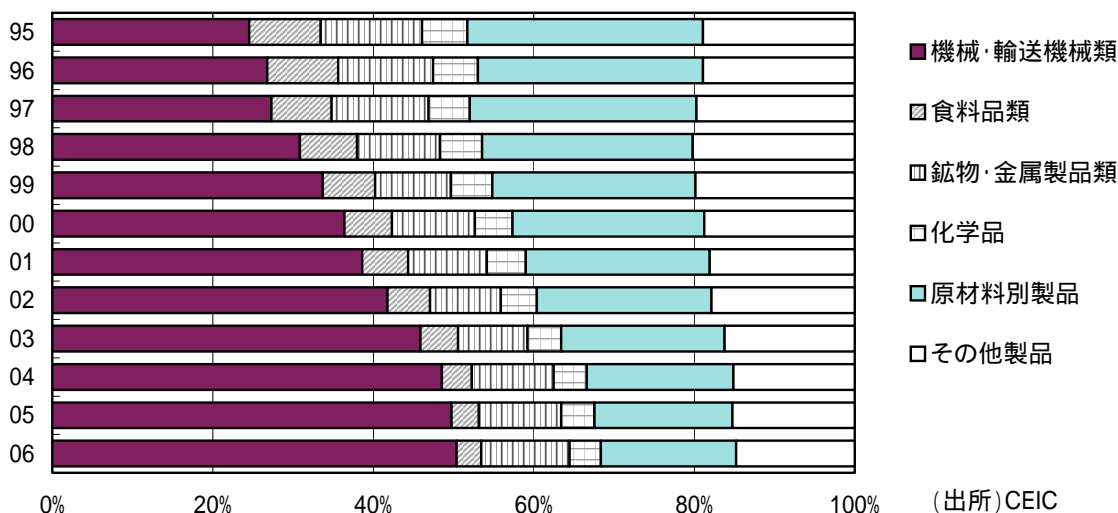
中国経済の安定を支える非先端産業

着実に進む産業の高度化

3月中旬、中国国務院（中央政府）が2月大型旅客機の自主開発プロジェクトの着手を承認していたことが明らかとなった。報道によれば、2020年までに150人乗り以上の大型旅客機の完成を目指しているという。中国産業の高度化は輸出品目構成の高度化が示すようにすでにかなり進んでいる。中国の輸出に占める機械・輸送機械類のシェアは95年の24.5%から06年には50.4%と5割を上回っている（図表1）。

その中国が「国家中長期科学・技術発展計画要綱」に基づき一段の産業高度化を目指して一步を踏み出したことが今般の大型旅客機自主開発計画着手により明らかになったわけである。4年連続10%台の高成長を続ける中国が次の時代の成長の糧を着実に準備していることが改めて印象付けられたと一件と言えるのではないだろうか。

図表1. 高度化する中国の輸出構造

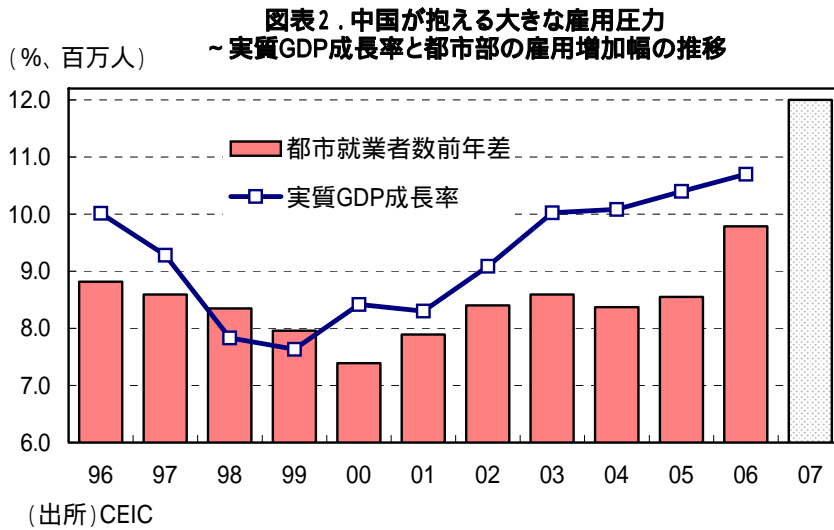


産業の高度化と非先端産業

ところで先進国の場合、産業の高度化は往々にして発展途上国の追い上げなどによる非先端産業の競争力の低下を伴っていた。そのため国内のヒト・モノ・カネといった資源がより高度な産業にシフトし、非先端産業は徐々に衰退していくというパターンが見られた。

果たして中国でも同様のパターンが見られるのだろうか。新華社によれば、今年の都市部の新規求職者数は2400万人にのぼる見通しという¹。失業を増やさないためには1200万人の退職者分を差し引いてもネットで1200万人分の新規雇用の確保が必要という計算になる。依然として雇用圧力が大きな中国で、相対的に労働集約的である非先端産業の衰退は始まっているのだろうか(次頁図表2)。

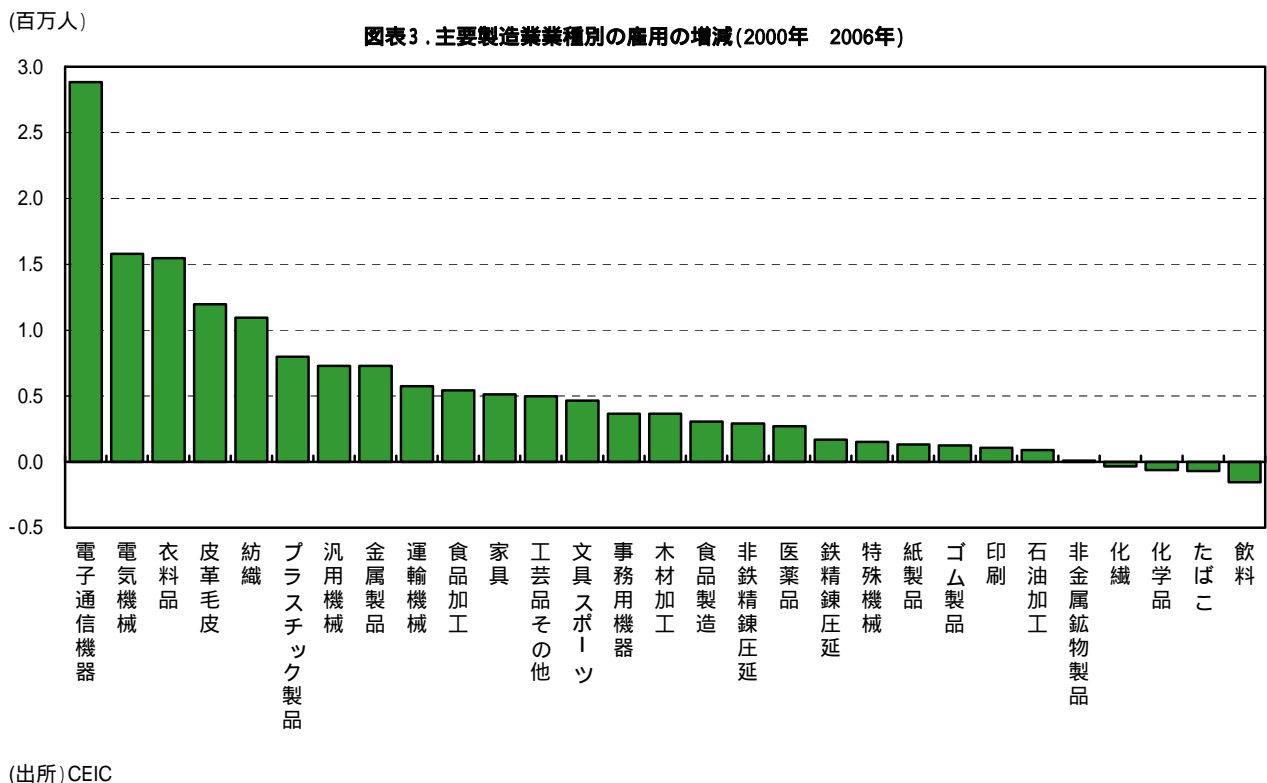
¹ 日刊中国通信 2007年3月15日号参照。



依然として「強さ」を維持する中国の非先端産業

そこでまず、中国の産業ごとの雇用吸収力にどんな変化が見られるかを見てみた（図表3）。00年から06年にかけて主要製造業の雇用者数は合計で約1600万人増加した。これを業種別にみても前掲の図表1の輸出品目の高度化同様、機械産業、中でも電子通信機器、電気機械で雇用がもっとも拡大していた。

しかし、それに次いで雇用拡大に寄与していたのは衣料品、皮革毛皮、紡織といった非先端の諸産業であった。衣料品といった非先端産業がパソコンなど技術先端製品を生産する産業とともに雇用の拡大、すなわち中国社会の安定に寄与していることがわかる。



次に OECD 加盟国の輸入に占める中国の品目別シェアの推移から中国の各産業の相対的な競争力の変化をみてみた（図表 4）。OECD の輸入全体に占める中国のシェアは 95 年の 3.7% から 04 年には 8.5% に約 5% ポイント拡大したにとどまっている。ただし、品目別にやや詳細にみると、前述の雇用同様、機械類（95 年 2.1% 04 年 9.7%）、中でも通信機器（同 8.2% 21.9%）、電気・電子機器（同 2.8% 11.9%）などが大きくシェアを拡大させており、世界市場において競争力を大幅に高めていることがわかる。

しかし、より注目されるのはその他製品に分類される衣料品、履物、玩具等の非先端産業分野でそもそも高かったシェアが一段と高まっている点である。95 年時点で既に OECD 加盟国の衣料品輸入の 17.4% を占めていた中国は 04 年には 25.0% とその 4 分の 1 を占めるようになっている。また履物については 95 年の 26.9% が 04 年には 38.1% と OECD 諸国の輸入履物の約 4 割を占めている。

これらの労働集約的な製品については昨今、中国の労働コストの大幅な上昇により競争力が低下していることが指摘されている。しかし、依然としてシェアの拡大が続いている現状はこれらの産業が労働コスト以外の部分で競争力を高めていることを示唆しているのではないだろうか。

図表 4. OECD加盟国の輸入に占める中国からの輸入の品目別シェアの推移

(%)

	95	96	97	98	99	00	01	02	03	04	95年対比 でみた04 年のシェ アの増減
輸入合計	3.7	4.0	4.3	4.5	4.9	5.5	5.9	6.8	7.6	8.5	4.7
0食料品生きた動物	2.5	2.7	3.1	2.8	3.2	3.9	3.9	3.9	3.9	4.0	1.4
1飲料たばこ	0.3	0.4	0.4	0.3	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.1
2食料に適しない原材料	2.2	2.4	2.5	2.4	2.7	2.8	2.8	2.8	2.9	2.9	0.7
3鉱物性燃料・潤滑油	1.4	1.4	1.4	1.3	0.9	0.9	0.9	1.0	1.0	1.2	-0.3
4動植物性油脂	0.3	0.3	0.5	0.4	0.3	0.4	0.4	0.3	0.4	0.4	0.1
5化学品	1.5	1.5	1.6	1.6	1.6	1.7	1.8	1.8	2.0	2.2	0.7
6原材料別製品	3.3	3.4	3.8	3.7	4.2	4.9	5.2	6.0	6.8	7.8	4.4
61皮革毛皮製品	2.6	2.4	2.8	2.6	2.9	3.3	4.4	4.7	5.6	6.8	4.2
65繊維・織物	7.5	7.0	7.3	6.6	7.4	8.6	9.0	10.2	11.7	13.3	5.8
7機械類	2.1	2.4	2.7	3.1	3.5	4.3	4.9	6.2	8.0	9.7	7.6
76通信音響機器	8.2	8.5	8.9	9.2	9.0	9.6	11.8	15.8	19.1	21.9	13.7
77電気・電子機器	2.8	3.5	4.2	4.8	5.5	6.0	7.0	8.6	10.4	11.9	9.1
8その他製品	13.6	14.5	15.3	15.4	16.6	18.3	18.9	20.2	21.6	22.6	8.9
84衣料品	17.4	18.3	18.4	16.7	18.4	20.5	21.1	21.8	23.2	25.0	7.6
85履物	26.9	28.6	30.1	32.0	33.6	36.7	37.2	37.4	37.4	38.1	11.2
89玩具事務機器	14.1	15.3	16.5	17.4	18.4	20.0	20.3	21.5	23.2	23.8	9.6

(出所) OECD International Trade by Commodities Statistics

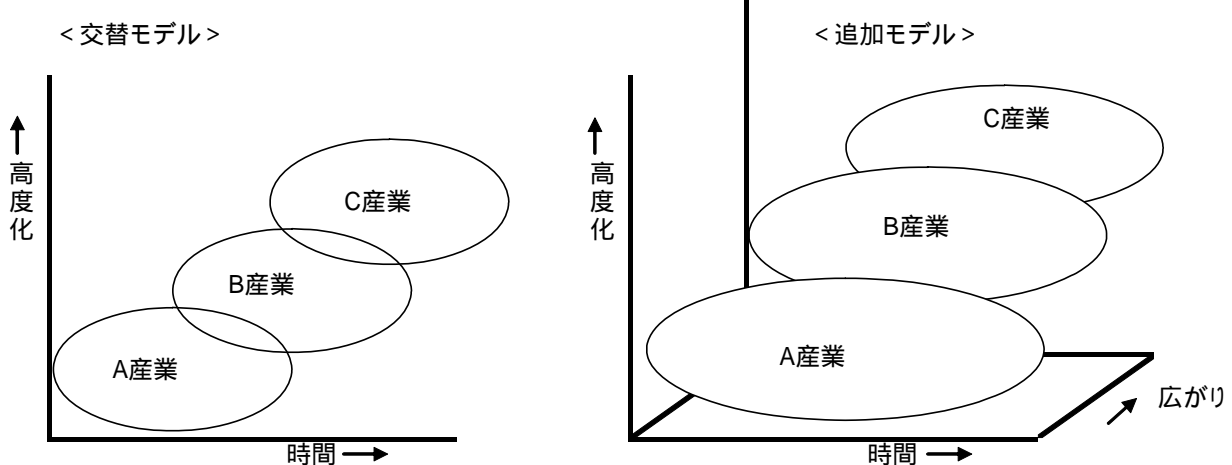
追加型モデルが中国の安定を支える

こうした状況は例えば、米国の場合とは大きく異なると言えるだろう。米国は航空機産業など最先端産業で世界をリードする存在だが家電などの非先端産業については発展途上国への生産移管が進んでいる。これは産業の高度化の過程で主体となる産業の交替が進むモデルと考えることができよう。これに対して中国では産業の高度化は非先端産業に先端産業が追加され、両者が並存し産業の裾野が広がる形で進んでいるようである。米国を典型とする先進国のパターンを主役交替型の二次元モデルとすれば、中国は主役追加型の三次元モデルとみることができそうである（下掲概念図参照）。

この追加型発展モデルの問題は輸出の拡大が続く一方で、産業の裾野が広がっていくのに合わせて輸入代替が進み、貿易黒字を溜め込む経済構造になり易いことだろう。実際、中国はこれまで対欧米貿易黒字の削減策の一環として米国や欧州から旅客機を大量に買い付けてきたが、旅客機の国内生産が始まれば、ここでも輸入代替が進んでしまう。即効性のある黒字削減策がひとつ減ってしまうわけである。

もちろん、いくら資源の豊富な中国といえどもいつまでも追加型モデルを維持できるわけではないだろう。しかし、当面はこうした産業の厚みが中国経済に力強さと安定をもたらすのではないだろうか。

(参考)産業構造の変化についての概念図



調査部 野田麻里子 (mariko.noda@murc.jp)